

## V モデルカリキュラム活用に当たっての留意事項

モデルカリキュラムは、各大学等において教職課程コアカリキュラムに沿って、シラバスを作成する際に参考としていただくために、いくつかの授業モデル等を示したカリキュラムである。各大学等においてモデルカリキュラムの活用に当たっては、以下のことに留意していただきたい。

### 1. 授業モデルを手がかりにして、創意工夫ある授業を創造

本調査研究では、モデルカリキュラムの授業モデルを提案する際、できるだけ学生たちの主体的・対話的な営みを通して深い学びとなっていくよう、教材の提示やグループ協議の課題及び進め方等について工夫したものを選択し紹介している。ただし、各大学等のシラバス作成する際にこれらを活用する場合は、そのまま取り入れるのではなく、各大学等のカリキュラムの特色や編成、学生の興味・関心、課題意識等の実態を踏まえ、創意工夫ある活用について吟味して取り入れていくことを期待したい。

### 2. 幼稚園教育、又は幼児期の教育を指導する人材を確保

今回の幼稚園教諭の教職課程の改訂における大きな変更点は、従来の教職課程にあった「教科に関する科目」を、「イ 領域に関する専門的事項」へと変更する点であり、授業担当者に幼児教育に関わる教育研究業績を有する人材を求めていることである。

このため、これまで「教科に関する科目」を担当してきた教員の中には、「イ 領域に関する専門的事項」の科目を担当するには教育研究業績が十分でない場合もあることが予想される。この場合、以下のことに留意してほしい。

- ・「領域に関する専門的事項」の科目の考え方については、本冊子の「Ⅲ 領域及び保育内容の指導法に関する科目」の「1. 科目構成の考え方」と「2. 『領域に関する専門的事項』のモデルカリキュラム」を参照のこと。この科目を担当するためには、幼稚園教育における領域に関連する学問分野を専門とする者が適当であり、教育や心理等の幅広い専門分野が該当すると思われる。但し、いずれの場合においても、幼児期の教育についての教育研究業績を有することが望ましい。
- ・「教科に関する科目」を担当する教員の中で、幼児期の教育に関する教育研究業績が十分でない教員は、今回の改訂を機に、「イ 領域に関する専門的事項」を担当する教員にふさわしい幼児期の教育に関する教育又は研究業績を積むことが求められる。
- ・また、現在「教科に関する科目」を担当する教員が「イ 領域に関する専門的事項」を担当する教員にふさわしい教育研究業績を一定期間経過後も有していない場合は、その科目を「大学が独自に設定する科目」に移行する等の人事面での配慮も考えられる。

### 3. 5領域の教育内容を実践するために必要な資質能力の明確化により質保証

今回作成した5領域の教育内容に関するモデルカリキュラムは、担当教員がシラバスを作成する際に参考とするものであると同時に、学生が当該事項について「全体目標」「一般目標」「到達目標」の内容を修得できるように授業を設計し、実施して、責任をもって単位認定をする基準となっていくものでもあり、幼稚園教諭の養成課程の質保証につながるものである。

それは、同時に学生に対しては、5領域の教育内容を実践するために、幼稚園教諭の養成段階において修得する内容を明らかにしたものである。これらを学生に示すことによって、学生は、養成段階修了までに修得すべき資質能力について見通しをもって学ぶことができる。

今後、幼稚園教諭の養成課程を有する大学等において、教職課程コアカリキュラムとともに、今回作成した5領域の教育内容を実践するための資質能力を修得するための本モデルカリキュラムが、広く活用されることにより、幼稚園教諭の養成課程の質保証につながることを、さらには幼児期の教育の向上につながっていくことを期待したい。